

アガへ No.43

総主事 堤 弘雄

聖書の言葉のちから

人生の歩みの中で、私たちは様々な困難に出会います。他者に自分の気持ちを傷つけられることもあり、自分が他者の気持ちを傷つけることもあります。信じていた人に裏切られることもあり、自分が裏切ってしまうこともあります。病の苦しさもあれば、愛する人を喪う悲しさもあります。老いがもたらす悲しみや苦しみもあるでしょう。乗り越えられそうもない困難に直面することさえあります。

そのようなとき聖書の言葉が私たちを支えてくれることがあります。「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはず。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。」(コリントの信徒への手紙1第10章13節)

神様を信じたから人生から困難が取り除かれるということはありません。しかし、神様に信頼を寄せ、聖書の言葉に従うことによって自分の心が救われることを私自身何度か経験しました。

私たちの人生の苦しみの多くは人間関係の中にあると言われています。たしかに人間は自己中心的な存在であり、知らず知らずのうちに人を傷つけ、裏切り、悲しませてしまう存在なのかもしれません。大切なことは、私たちがそのような人間の持つ弱さや罪を自分の中に認め自覚することだと思えます。そんな私たちに対して聖書は、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛すること」を求めます。そして、「互いに平和に過ごすように」と求めます。これは神が人間に寄せられた信頼と期待の言葉です。このような聖書の言葉を心に留め、現実の人間関係の中に生かすことによって、互いに愛し合うことも、許し合うことも、支え合うこともできる存在となりえると思うのです。



各地域YMCAで開催されるYMCA祭りの益金は、YMCAの国際協力活動や青少年育成活動のために役立てられています。赤水保育園、尾ヶ石保育園、永草保育園の阿蘇3園では、レクリエーションやミニ運動会など毎年趣向を凝らした合同イベント「あそまつり」が行われてきました。今回は、昨年8月に7森の保育園として生まれ変わった赤水保育園を会場に、8月29日(土)に夏祭りが行われました。3園がそれぞれ食バザーやゲームコーナーを出店し、400名を超える園児・保護者・職員が親睦を深めました。また、9月20日(日)ながみね



ファミリィYMCAで開催された「第22回ながみね祭り」には、およそ3000名もの来場がありました。今回の目玉は、YMCAサッカースクール出身で、Jリーグ2部(J2)ロアッソ熊本の宮崎大志郎選手と小森田友明選手のゲスト出演。体育英語幼児園ラッコクラスの子どもたちとのテーブルカットや子どもたちからの質問コーナーなど、楽しいひと時を与えてくれました。食バザーには長い行列ができ、新体操クラスのメンバーや体操リーダーによるパフォーマンス、浴衣コンテストなど会場は大



熊本みなみYMCAが9月から始めた親子で参加する新しいプログラム「たまごスペース」。子育て支援プログラムの一環として、「親子と子どものスキンシップの場や、子育ての相談など、親同士も交流できる場を提供したいと考えています。また、プールや体操といったYMCAの他のプログラムに参加する前に、内容や雰囲気や直接体験できる機会として利用していたければ」と担当スタッフの谷川

恵里さん。0歳〜未就学児と保護者を対象に、ボール遊びや歌に合わせてリズム体操など、子どもが親と、さらに周囲の友だちとのコミュニケーション能力を高めるプログラムが組まれています。切った新聞紙をしっぽにして取り合う「しっぽ取り競争」では、「待ってー!」というお母さんの声に、子どもたちは笑顔で元気に走り回ります。敬老の日を送る手紙づくりなど、季節に合わせた工作の時間もあり、親同士が制作を手伝いながら交流する姿も見られました。今回が2回目という松井佳子さんと2歳の遥香ちゃんは、「天候に関係なく、広い場所で走り回れるのがいいですね。子どもとゆっくり向き合える、大切なふれあいの時間になっています」と話されました。開催は、毎週金曜日9時30分より、料金は1回500円。時間内は自由に入退室もできるので、気軽にご参加ください。

地域とともにYMCA祭り



親子の交流が深まる 自由な遊びの空間 たまごスペース



留学生在が日本語でスピーチ

熊本YMCA学院日本語科スピーチ大会。開催日時/2009年9月17日(木)9時半〜11時半。開催場所/熊本市立図書館2階ホール。日本語科留学生によるスピーチ大会が開催され、予選を通過した13名が出場。約130名の来場者が見守る中、堂々とした日本語で学習の成果を披露しました。1位には「タイの山岳民族の差別について」をテーマに民族の抱える問題について発表したアランヤ・セーファンさん(タイ)、2位は「ありがとう、ヨソ様。でも…」と題しユーモアを交えて発表した柳甫佑さん(韓国)、3位は「私とボランティア」について福祉施設や盲学校での体験を語ったパニサラ・ターホンさん(タイ)が選ばれました。留学生の視点で捉えた発表はどれもすばらしく「感動した」との声が会場から寄せられました。



ボウリングで交流&チャリティ

開催日時/2009年9月23日(祝・水)9時〜12時。開催場所/マスターズボウル熊本。



スポーツを通して会員相互の交流を深めようと、第17回会員スポーツ大会が開催。11歳から83歳の会員まで幅広い世代の約170名が、チーム対抗のボウリングを楽しみました。プレイヤーはタイ里親運動支援のため、ストライク1回につき100円を募金。タイ山岳少数民族出身で熊本に留学中の2人も大会に参加し、「皆さんとボウリングを楽しむことができうれしかった」と協力に対する感謝の気持ちを述べました。